

令和3年度第2回
文京区生物多様性地域戦略協議会会議録

日時：令和4年1月26日（水）
午後2：00～午後3：31
場所：オンライン開催

文京区資源環境部環境政策課

○環境政策課長 それでは、定刻を過ぎましたので、皆様、こんにちは。私、文京区資源環境部環境政策課長の**大野**と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまより令和3年度第2回文京区生物多様性地域戦略協議会を開会させていただきます。

本日はお忙しい中、本協議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本協議会の事務局を担当いたします、資源環境部環境政策課長の**大野**でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の協議会の進行につきましては、お手元の次第に沿いまして進めさせていただきます。

最初に、協議会の議事に先立ちまして、委員の委嘱並びに会長、副会長の選出をさせていただきます。

新委員の紹介をいたします。

まず、委員の委嘱でございます。

本協議会の委員につきましては、前期の任期が令和3年11月3日までであり、11月4日より新たな任期となっております。皆様方には、今任期の委員の就任につきまして御承諾をいただいているところでございます。委員の委嘱状につきましては、先日送付させていただきましたので、よろしくお願いいたします。

今回は、委員改選後初の協議会であり、また、区民公募委員の改選などがございました。私のほうから、委員の皆様を改めて紹介させていただきます。

委員幹事名簿に沿いましてお名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますが、改めて団体名、所属、お名前をお願いいたします。なお、マイクにつきましては、御発言の際にはオンにさせていただき、それ以外のときはオフにさせていただきますよう、よろしくお願いいたします。

まず、学識経験者の委員の方でございます。

宮下直委員でございます。

○宮下委員 東京大学の宮下と申します。よろしくお願いいたします。

○環境政策課長 よろしく申し上げます。

中山智晴委員でございます。

○中山委員 文京学院大学の中山と申します。よろしくお願いいたします。

○環境政策課長 次に、関係団体選出の委員でございます。

村越義晴委員でございます。

次に進めさせていただきます。

堀口法子委員でございます。

○堀口委員 よろしく願いいたします。

○環境政策課長 松下和正委員でございます。

○松下委員 松下です。よろしくお願ひします。

○環境政策課長 よろしく願いいたします。

高橋康夫委員でございます。

和田真澄委員でございます。

次に、区民公募委員に進めさせていただきます。

池原庸介委員でございます。

○池原委員 池原でございます。よろしく願いいたします。

○環境政策課長 小川みふゆ委員でございます。

○小川委員 小川みふゆです。よろしくお願ひします。

○環境政策課長 佐野裕隆委員でございます。

○佐野委員 佐野と申します。よろしくお願ひします。

○環境政策課長 木村佳恵委員でございます。

○木村委員 木村佳恵と申します。どうぞよろしくお願ひをいたします。

○環境政策課長 次に、事業者選出の委員の方でございます。

見明さやか委員でございます。

○見明委員 お茶の水女子大学の施設課の見明と申します。よろしく願いいたします。

○環境政策課長 以上が、委員の皆様でございます。

なお、本日、栗田委員が所用により欠席という御連絡を事前にいただいております。委員の任期につきましては、文京区生物多様性地域戦略協議会設置要綱第4条により2年間となっております。皆様の任期につきましては、令和3年11月4日から令和5年11月3日までとなりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは次に、幹事の御紹介をいたします。

企画政策部長、大川幹事でございます。

○企画政策部長 大川です。よろしくお願ひいたします。

○環境政策課長 アカデミー推進部長、高橋幹事でございます。

○アカデミー推進部長 高橋です。よろしくお願いいたします。

○環境政策課長 都市計画部長、澤井幹事でございます。

○都市計画部長 都市計画部長の澤井でございます。よろしくお願いいたします。

○環境政策課長 土木部長、吉田幹事でございます。吉田幹事につきましては、本日代理出席となっております。続きまして、資源環境部長、鶴沼幹事でございます。

○資源環境部長 鶴沼と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○環境政策課長 施設管理部施設管理課長、安藤幹事でございます。

なお、本日は八木教育推進部長が、別の公務のため欠席となっております。

以上で、幹事の紹介を終わります。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。ここで、マイクは一旦オフにさせていただきますようお願いいたします。

続きまして、会長の選出、副会長の指名を行いたいと思います。まず最初に、会長の選出でございます。本協議会設置要綱第5条第2項により、会長は、学識経験者の中から委員の互選によって選出となっております。学識経験者の方に御推薦をいただくという方法で選出をお願いできればと思いますが、よろしいでしょうか。

○中山委員 中山です。よろしいでしょうか。

○環境政策課長 それでは、先生方、御推薦をお願いいたします。

○中山委員 中山からよろしいでしょうか。

○環境政策課長 お願いいたします。

○中山委員 引き続き、宮下委員がよろしいかと思えます。宮下委員は、文京区生物多様性地域戦略策定においても、参考資料の御教示、情報提供等の協力をいただき、区の自然環境にも精通されているため、宮下委員を御推薦申し上げます。よろしくお願いいたします。

○環境政策課長 中山委員、ありがとうございます。ただいま、中山委員から宮下委員を会長にという御推薦がございました。宮下委員、会長をお願いできますでしょうか。

○宮下委員 了解しました。

○環境政策課長 ありがとうございます。

それでは、宮下委員に会長に御就任いただきます。宮下会長、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、副会長ですが、副会長につきましては、本協議会設置要綱第5条第3項により、学識経験者の中から会長が指名することとなっております。宮下会長、いかが

でしょうか。

○宮下会長 副会長は学識経験者というお話ですので、引き続き中山委員にお願いしたいと思えます。よろしくお願ひします。

○環境政策課長 ありがとうございます。

ただいま、宮下会長から中山委員を副会長にという御指名がございました。中山委員、副会長をお願いしてよろしいでしょうか。

○中山委員 了解しました。よろしくお願ひいたします。

○環境政策課長 ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

中山委員に、副会長に御就任いただきます。中山副会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、宮下委員に会長を、中山委員に副会長をお願いすることといたします。

それでは、ここで宮下会長に御挨拶をいただきたいと存じます。会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

○宮下会長 ただいま御指名で会長になることになりました宮下と申します。

コロナで、恐らくこうして皆さんとZ o o mでも顔合わせするのは初めてではないかと思えます。

私は、現在東大の農学部におります。ただ、実は学部時代から東大の農学部のほうにおりますので、大体40年くらい文京区にはお世話になっています。現在、千葉県の柏市に住んでいますが、文京区とはずっと関わりが深く、思い出が深い場所です。

先ほど中山委員のほうから御紹介ありましたが、文京区の地域戦略との関わりは、私が五、六年前に執筆した「となりの生物多様性」という本にあります。この本は、生物の多様性が私たちの生活にどう関わっているか書いたものです。それを読んでいただいた方が私のところに来ていただいて、地域戦略のヒアリングをして、書籍の内容を参考にしていただいたという縁があります。

そのときにお話ししましたが、生物多様性というと、絶滅危惧種や珍しい生物がたくさんいる地域が重要だというふうに思われる方が一般には多いかもしれません。確かにそういう面はありますが、よく考えますと、都市住民、特に首都圏など、自然から隔絶した地域に住んでいる方々こそが、実は生態系や生物多様性に非常に大きな負荷をかけているのも事実です。

また文京区の場合ですと、都心にはありますが、いろんな公園があり、比較的自然環

境には恵まれているほうだと思います。ですから、身近な癒しの空間というものも、決して無視することができないわけです。そういう意味から、この文京区で生物多様性を考えていくというのは非常に重要であると思っています。ぜひ、よろしくをお願いします。

以上です。

○環境政策課長 宮下会長、ありがとうございました。

それでは、本日の資料について申し上げます。

本日、資料は事前にお送りいたしました資料第1号、それから図鑑の表紙案となります。よろしいでしょうか。

それでは、これから皆様に議事を御協議いただきたく存じます。これからの運営は、本協議会設置要綱に従い進めてまいります。本協議会設置要綱第5条第6項により公開することとなっておりますので、よろしくをお願いいたします。

なお、マイクにつきましては、発言の際にはオンにし、それ以外のときにはオフにしてくださいようよろしくお願いいたします。

それでは、これからの進行は宮下会長にお願いしたいと存じます。宮下会長、よろしくをお願いいたします。

○宮下会長 それでは、これから協議を始めたいと思います。

本日、協議していただく議題については、次第のとおりです。

まず、文の京生きもの図鑑について、これは事務局より資料説明をお願いしたいと思います。

○環境政策課長 それでは、資料第1号を御覧ください。画面を共有させていただきながら、御説明させていただきたいと思います。

まず最初に、図鑑の全体の説明、目次を基に御説明をいたします。

既にお送りさせていただいておりますが、構成やコラム、テーマにつきましては、第1回協議会で決定したものに従って内容を作成しております。

最初のはじめにというところから始まりまして、文京区の生きもの生息環境の中にこのような項目が書かれております。それから、文京区の生きもの、付録という形で全体の構成となっております。

今回の図鑑につきましては、身近な動植物に興味を持っていただく、先ほど会長からお話ございましたが、持ってもらふということに加えて、私たちが生物多様性とどのような関わりがあるかについて理解浸透を図れるように、動植物の写真掲載だけでな

く、暮らしと生物多様性の関わりなどについても記載してございます。

また、本図鑑の生き物とは、動物、植物など全ての生き物のことを指しております。

次に、1 ページ目に進んでいただきます。

はじめにというところでございますが、本書の使い方、また、4 ページの生きものたちを見つけるポイント、7 ページには生きものたちを見分けるポイントを記載してございます。

続きまして、10 ページ目です。

文京区の生きもの生息環境、文京区の自然環境マップといたしまして、樹林や草地、水面等、生き物が生息する区の自然環境の地図を記載してございます。

続きまして、12 ページに進んでいただきます。

コラムといたしまして、文京区の地名に見る生きものとの関わり、自然環境マップにおきまして、文京区は地名に生きものとの関わりが見られるところも多数ございます。鷺坂や蛙坂など、地名の由来を紹介してございます。

続きまして、14 ページでございます。

文京区の自然環境の移り変わりといったしまして、旧石器時代から現在に至るまで、土地利用と生きもの生息環境の移り変わりについて記載してございます。

地域戦略でも各時代の土地利用について掲載してございますが、図鑑作成に当たりまして、再度、文京区ふるさと歴史館等から情報や画像提供を受けまして、更新してございます。

続きまして、17 ページにお進みください。

文京区の生物多様性の特徴、台地と崖線と低地が入り組んだ起伏に富んだ区の特徴ある地形や、18 ページでございますが、崖線がもたらす湧水、かつて区にあったといひますか、地表を流れていた川等を記載してございます。

続きまして、20 ページにお進みください。

また、歴史と文化が豊かな文京区では、行事や文学、庭園等に生きものとの関わりが見られまして、花の五大まつりや、森鷗外等の植物が登場する作品について触れております。

22 ページにお進みください。

私たちの生活と生物多様性というところで、私たちの暮らしがたくさんの生きものの生物多様性がもたらす恵みによって支えられていることを改めて認識してもらうため、

生物多様性がもたらす自然の恵みである4つの生態系サービスについて説明をしております。こちらにつきましては、特に宮下会長から助言をいただきながら、先ほど御紹介ありました本などを基に構成しております。

23ページ、24ページですが、こちらのコラムでは、豊かな食生活は生物多様性から成り立っていることや、私たちの身近には、生きるものの形態や機能をまねしたり発想を得たりしてつくられたものがあるということを具体的に示しております。こちらに記載してあるとおり、こういった生きものや植物の特徴、実際に機能をまねしてつくっているというところを御紹介しております。

次、25ページでございます。

文京区の生きもの生息環境の特徴といたしまして、住宅街、ビル街、学校等の生息環境の種類ごとに特徴や主な施設、生息環境イメージを記載しております。地域戦略に記載いたしました生息環境のカテゴリーを改めて整理いたしまして、施設の写真についても一部更新しております。

まず最初に、住宅街について、庭木や花壇、プランター等の1つ1つの小さい緑に生き物が行き来しながら生息していることや、右側のビル街につきましては、屋上緑化等、ビル群の中で生き物が休息できる貴重な場所になっております。道路の街路樹や花壇は、昆虫類や鳥類が見られます。

続きまして、学校の生きもの生息環境の特徴、大学等緑の規模が比較的というか非常に大きい施設では、生き物の拠点となる自然環境となっております。

右側、社寺の生きもの生息環境の特徴といたしましては、昔からの緑が残っているところが多く残っておりまして、そういったためタヌキの寝床になっている場所もあるというところなんです。外線沿いの社寺等では湧水が残っているところもございます。

続きまして、庭園の生き物として整理しております。敷地内に樹林地、水辺、草地等の多様な環境やまとまった緑があるため、多種多様な生き物が生息しております。

続きまして、公園の生きもの生息環境の特徴でございますが、公園としての人為的に管理された環境と共存する多種多様な生き物が生息しております。

最後に、河川の生きもの生息環境の特徴といたしまして、神田川ではカワウやサギ類の鳥類が生息し、冬にはカモやユリカモメ等が見られます。

33ページに進んでいただきまして、文京区の生きものとして、こちら、ホームページ上で公開しております文の京生きもの写真館に投稿された写真や個人からの

提供写真、事務局が撮影した生きもの写真を基に掲載し、種ごとに特徴を記載してごさいます。

掲載種は、区内で比較的好く見られ、身近でなじみがあるものを中心に、生きもの同士で関係性が深いもの、アゲハとサンショウ等、そういったものや文京区らしいものとしてイチョウやツツジ、寺社との関係深いサカキ等も紹介しております。

続きまして、33ページから種ごとに整理してごさいます。

まず、33ページから哺乳類を記載してごさいます、35ページからは鳥類について御紹介してごさいます。

52ページまで飛んでいただきます。

こちらは爬虫類についての御紹介、続きまして55ページからはカエル等の両生類、それから56ページからは魚類の紹介、その後59ページになりますが、陸産貝類、ヒダリマキマイマイなどを記載してごさいます。

60ページからになりますが、昆虫類の記載、84ページからはクモ類、90ページからは植物に入りまして、種子植物類からずっと続きまして、最後、112ページまで飛んでいただきますと、菌類を御紹介しているというふうになってごさいます。

そして、115ページにお進みください。

付録といたしまして、文京区での生きもの確認種リストを掲載してごさいます。

過去の調査等で、区内で確認された種の一覧、区内で確認された重要種、外来種等の記載をしてごさいます。こちらのリストについては、今後、生きもの写真館の写真、投稿写真の種も含めて掲載してごさいます。

119ページをお進みください。

こちらのコラムでは、現在、生物種の絶滅が進んでいる状況にあることや、生物多様性に迫る危機、それに対して区民が取り組めることができる事例を紹介してごさいます。

124ページ、お進みください。

こちらは、特定外来種のように生態系に直接の影響を与えるものではなくても、人にとってスズメバチ等、危険な生き物や迷惑となるような生き物もいるため、そういったものとの付き合い方等について触れてごさいます。

125ページですが、文京区の主な生き物について、暦といたしまして、区内で観察できる主な生き物について、見られる可能性のある時期を整理した表となります。

それから130ページになりますが、文京区で季節限定で見られる生き物として、冬

鳥や夏鳥などの渡り鳥、昆虫を紹介してございます。

132ページにお進みください。

生きものとの関わりがある区内行事、それから俳句の季語にもなっている生きものについて触れ、四季と生きものとの関わりについて記載してございます。

134ページにお進みください。

生きものの観察あれこれといたしまして、生きものの観察のポイント、観察で注意すること、持ち物のチェックリスト、観察ノートをまとめております。

138ページですが、区内にまとまった緑がある社寺や庭園、都市公園等の生きものの観察スポット、こちらについて、どのような生きものが観察できるかを紹介するものをマップとして御紹介しております。区内の自然散策に活用していただければというふうに考えております。

140ページですが、まとまった緑や緑地、水辺、小さな緑地や水辺をつなぎ、生き物が移動できるようになることで多種多様な生きものが暮らしやすい状況がつけられる、こういったものをエコロジカルネットワークと呼んでおりますが、そういった仕組みについて御紹介しております。

142ページ、143ページでは、こちらのエコロジカルネットワークの取組の1つとして、住宅のベランダ等の限られた空間に、生きものの暮らす場所、ビオトープをつくることを御紹介しております。

最後、索引、それから用語解説、参考文献等、こちらのほうを今後盛り込んでいきたいなというふうに考えております。こちらの部分については、内容確定次第、最終的に作成してまいります。

図鑑についての説明は以上でございます。

○環境政策課長 それでは、資料の表紙のほうを御覧ください。

今画面共有させていただきましたが、こちらが表紙の案となっております。

区の歴史と文化のイメージに合わせまして、背景には和風のデザインを用いております。動植物の写真につきましては、デザインに組み込む形で、目を引く色の生物種を中心に掲載しております。御覧いただいているとおり、カワセミやフクロウ、シロバナタンポポ、こういったものを掲載してございます。

図鑑の本体の内容の御説明と表紙案について御説明させていただきました。

会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○宮下会長 どうもありがとうございました。

私、事前にいろいろ案の段階から見せていただいていたのですが、いわゆる単なる生きもの図鑑ではなくて、地域の歴史から文化から、現在の生活との関わりに至るまで大変幅広い内容の事柄を扱っている、すばらしい本ではないかと思います。

それでは、ただいま御説明がございました内容について、御質問、御意見がございましたらお願いします。御質問、御意見ある方は、Zoomの右下のほうにリアクションと書いた丸い印がありますが、ここを使って挙手機能、手を挙げるというボタンをクリックしてください。

なお、御質問、御意見の内容によりましては、担当であります各幹事に説明いただくこともありますので、その際はよろしくをお願いします。

それでは、いかがでしょうか。せっかくの機会ですので、気軽に質問や御意見いただければと思います。

小川様、どうでしょうか。よろしくをお願いします。

○小川委員 小川です。

植物の種のリスト、種の図鑑を見せていただいたところですが、そもそも文京区内によく見られる、親しみ深いというものをリストにされたということですが、ちょっと違うかなという種も入っているように感じています。

その例の1つですけれども、チチコグサですが、チチコグサは日本在来ですけど、文京区を散歩して一番よく見られるのはウラジロチチコグサです。その次によく見られるのは、チチコグサモドキです。チチコグサは、あったねというぐらいのレベルで出会えるようなもので、ウラジロチチコグサやチチコグサモドキは帰化種で、生物多様性を勉強する上では、帰化種もこんなにあるよというのがここで勉強できるのではないかなと思うので、親しみ深いという意味では、ちょっと選定種が違うかなという印象があります。まず、1点目はそこです。

あとは、続いて話してしまってもいいですか。

初めに、セイヨウタンポポとカントウタンポポの総苞片の違いのイラストがあるにもかかわらず、中のほうで見ると、セイヨウタンポポは載っていないということになっていますが、せっかく載っているのだから、親しみやすい、数が多いといったら、圧倒的に文京区内はセイヨウタンポポなので、紙面の関係もあるとは思いますが、セイヨウタンポポもあればロケーションもよく分かるのでいいのかなと思いました。

あと、さらに続けていきますね。生育環境ですけれども、幾つか、本当にそうかなと思うものがありまして、ノグシは草地となっていますけども、歩いてみた感じでは、路傍や空き地が多いような気がします。文献を一応当たってみました。文献でもやっぱり路傍とか空き地とかなっているの、もう一度ちょっとこの辺の生育環境については再検討いただきたいなと思いました。

ひとまず、そこまでです。

○宮下会長 ありがとうございます。

植物の選定の件について、今御指摘あったのはチチコグサとセイヨウタンポポとノグシでしょうか。セイヨウタンポポは加えてほしいという御要望で、ノグシは生育環境についてでしょうか。

○小川委員 そうですね。生育環境の再検討をお願いしたいかなと思います。

○宮下会長 小さい字で生育環境とあって、その後に草地とありますが、そこを検討していただきたいということですね。どうすればいいでしょうか。

○小川委員 路傍、空き地がいいかなと思います。

○宮下会長 路傍、空き地ですね。

○小川委員 あと、チチコグサも、せっかくだったら数の多いウラジロチチコグサのほうがいいのではないかなと思います。

○宮下会長 チチコグサは何ページでしょうか。

○小川委員 106ページです。

○宮下会長 分かりました。そうですね。ハハコグサの上にある種で、チチコグサは結構レアな種なので、むしろウラジロチチコグサのほうが見つけやすいだろうと、そういうことですね。

○小川委員 そうですね。両方載せるなら両方でもいいかなとは思いますが。在来と帰化という意味で。

○宮下会長 ありがとうございます。このような御意見ですが、どなたか担当者の方、お願いします。

○環境政策課長 環境政策課長、大野です。

御指摘いただいた件につきまして、今回、この図鑑を作成するに当たって監修をお願いしている先生もいらっしゃいますので、いただいた意見を踏まえまして、差し替える、また追加するというようなところを検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

す。

○宮下会長 どうも貴重な御意見ありがとうございました、小川さん。

それでは次に、挙手されている佐野様、お願いします。

○佐野委員 それでは、意見を述べさせていただきます。

大変すばらしい図鑑案ができたなと思っておりまして、すごく内容を具体的に拝見して、興味がそれほどない人も含めて、すごく生きものについて楽しく学べる図鑑になっているのかなと思います。

先ほどの小川委員の発言にも関連して、ちょっと何点か意見があるので、質問と意見を述べさせていただきますと、まず、種類の中で、特に植物の部分が気になったのですが、ツツジのような園芸品種が掲載されている一方で、例えば春になると道端でよく見かけるようなスマレなどの、いわゆる野草類については、必ずしも載せきれてない部分があるのかなと思ひまして、その辺の掲載の判断の根拠みたいなものがあればちょっとお聞きしたいなと思ひました。特に園芸品種を載せていくとなると、多分、相当数になってしまいますし、文京区と縁があるということでツツジを選んだのかもしれませんが、なぜツツジなどだけが入っているのかなというところが気になった次第です。

それから、説明文を拝見していますと、大陸中国とか中国大陸とか中国という表現で統一が取れていないなど、北米とか北アメリカという表現で、やはり原産地の表記にばらつきがありまして、多分参考にされている文献の違いなのかなとは思ひうんですけど、その辺りの表記については、もうちょっと統一をしたほうがいいなというふうに思ひました。

それから、特定外来のところ、アメリカザリガニがその他の外来生物ということで入っていますが、令和2年からは特定外来に変わっていると思ひうので、ちょっと情報の更新の状況や考え方にもよると思ひうのですけれど、できれば初版になると思ひますので、最新の情報に、もう一度印刷する前にチェックされたほうがいいのかなと思ひました。

それからもう1点、恐れ入ります、ページでいきますと23ページで、「環境に配慮した食材を食べよう！」ということで、エコラベル4種類について例示をされておりまして、恐らく地域戦略のほうから引っ張ってきたものだからということだと思ひますが、食材を食べようというところの中にF S Cの認証の紹介が入っておりまして、これはちょっと食材のエコラベルではないと思ひますので、ほかの3つは食材に関連するものだとは思ひうのですが、F S Cはちょっと直接的な関連性が低いと思ひうので、外すか別のも

のに差し替えられてはどうかと。環境省で、環境ラベル等データベースというのがあります。マリン・エコラベル・ジャパンなどが紹介されていますから、そちらですと、隣のMSC認証とも関連深いということで、日本がやっている海洋生物認証でもありますので、その辺と変えてもいいのかなという気はいたしました。

ちょっと長くなりましたが、以上です。

○宮下会長 ありがとうございます。

まず、4点あったと思いますが、私の意見を最初に述べさせていただきます。まず、中国などの大陸という表記の統一ですね。これはぜひ統一した表記にしていきたいと思います。恐らく、根拠があってというよりは、吟味が足りなかっただけかだと思いますので、対応をお願いできればと思います。これは私からもお願いします。

アメリカザリガニについても、おっしゃるとおりですので、これも最新のものをお願いします。

最後のFSCですけれども、確かに食材という意味では不正確だと思うのですが、例えば、野菜ジュースなど、パックにこのFSCがかなり使われていまして、直接トマトがFSCではないですけれども、その入れ物という意味で使われていると思います。ですから、直すとすれば、先ほど御提案のような食べ物にするか、あるいは食材というところを何か少し変えて表現するという、そのどちらかが良いと思います。

あと、最初の種の選定は、好みがあり、いろいろ難しいとは思いますが、コンサルの方でしょうか。植物の選定について御意見がありました。それに関わった方がいらっしゃると思うので、御意見いただければと思います。

○建設技術研究所 図鑑の作成委託を受けている建設技術研究所から回答させていただきます。

まず、ツツジが何で選ばれたのかといったところですが、ツツジにつきましては、区の花にも指定されておりまして、その関係で特段採用させていただいたといったところがございます。

ただ、スマレなど、野草など、載せきれてないものがあるのかなといった御指摘もありましたけど、今回、図鑑のほうで基にしている区民から投稿された写真、そういったものも幾分か限られたものがありまして、その関係で、若干載せきれてない部分もあるのかなといったところがございます。

○宮下会長 今回の写真は、基本的に文京区で撮られたものを優先、ベースにしていると

いう理解でしょうか。

○建設技術研究所 そうです。区内で撮られたものです。ほぼ全てです。

○宮下会長 恐らく、ほかの動物とか昆虫でもそうですが、何でこの種なのだろうというのは、いろいろ理由があるようです。できるだけその地域で撮られた写真、実はタヌキの写真は、私が東大の中で自動撮影カメラで撮ったものですが、そういう判断も多分あって入っているのかなと思います。

もしぜひということであれば、どうなのですか。スマイレも多分いろいろあるとは思いますが。

○建設技術研究所 スマイレも、若干不鮮明な写真があるにはあるのですが、それが図鑑に耐え得るかどうかといったところもありまして、このところも監修の先生と相談しながら、分かる範囲で改良のほうはさせていただければと思います。

○宮下会長 もう一度繰り返しますと、産地の記述の表記の統一や、特定外来生物のこと、あとF S Cはどうしますか。

○環境政策課長 会長、環境政策課長、大野です。

○宮下会長 はい。

○環境政策課長 F S Cにつきまして、会長おっしゃっていただいたとおり、ジュースなどに記載されているというところがありますので、そちらの記載されている説明の内容を少し分かりやすくするか、なかなかその説明が難しいということであれば別のものに差し替えるという形を、御相談させていただきながら修正したいというふうに思います。

コンサルさんのほうからお話をさせていただいてしまいましたが、ツツジにつきましては、文京区という関わりがあるというところでも中に入れさせてもらったわけですが、全体の、そういった統一性というところも、会長からもお話がございましたので、一旦預らせていただいて、御相談させていただいて、校正をかけていきたいというふうに思います。

○宮下会長 ありがとうございます。F S Cについては、このコラムを見ますと、食生活の中の生物多様性という中で、ジュースは当然食生活に関わることなので、私はF S Cはすごく大事だと思います。この中で、ぜひ扱ってほしいと思いますが、食べ物そのものではないので、少し表現を変えればオーケーじゃないかと思いますが、佐野様、いかがでしょうか。

○佐野委員 会長がおっしゃるように、見出しを例えばより正確に変えていただくなどす

れば、誤解は招かないと思いますので、結構かと思います。

○宮下会長 ありがとうございます。貴重な御意見、本当にありがとうございました。

では、ほかにいかがでしょうか。小川さん、どうぞ。

○小川委員 すいません、度々で申し訳ありません。

あと2点、少し気になる点がありまして、1つ目、学名の件ですけれども、後ろの146ページの種子植物類・シダ類・コケ類の参考文献を見ると、非常に古くて、多分ここに書かれてある学名はエングラークラシフィック分類に従っていると思うのですが、実際に生きものリストに書いてある学名はAPG分類で入っていると思います。サカキがモッコク科に入っているということもあるので、もし逆に文献から見た人が、あれ、学名違うよという誤解を生じる可能性があるのでは、どこかにAPG分類だよという、最新の学名を使っていますという記載がないと、ちょっと学名がずれているという質問が来る可能性もあるかなということが気になりました。それが1つ目です。

2つ目ですけれども、やはり生育環境に関してですが、確かに凡例の前の生育環境のアイコンでは草地とありますが、実は中を順々に見ていくと、生育環境と示されている地図、イラストの中に含まれている中では草地というものがないので、ちょっとこの辺の齟齬があるというか、草地と書かれたときに、どこを見ればいいのかというのはあります。

というのは、草地と書いてあるけど、やぶかなと思うような立地のものの記載があるので、ちょっとこの辺は、先ほどとかぶりますが、生育地環境については、もう一度御検討をお願いしたいということを重ねて申し上げます。

○宮下会長 ありがとうございます。

まず、分類についてですが、これは生育環境などをこの図鑑から参考にして、実際に名前を与える部分ではそういう最新のものを付与したという、経緯は分からないのですが、そういうことなのでは、編集に関わった方、御存じでしょうか。

○建設技術研究所 事務局から回答します。参考文献を基に、当初は作成を進めさせていただきましたが、監修の専門の先生と御相談をさせていただきながら、学名につきましてもAPG分類等に適宜直させていただきましたので、図鑑のほうでも、学名等はそういった説明をどこかで入れ込む形で対応させていただければと思います。

○宮下会長 ありがとうございます。そういう形で多分大丈夫かなと思います。

あと、生育環境で草地が抜けている、どこかに抜けているということでしたか。

○**小川委員** 2ページには、生育地環境のアイコンで草地という表示があるのですが、生きものの環境として、あとのページで出てきますよね、公園とか、住宅地とか。その中では全く草地の説明がないので、草地をどうイメージしていいか分からないのと、草地というのがかなり微妙な表現なので、どうしようと齟齬がないように、草地が何であるか分かるようにしていただきたいなというのがあります。

○**宮下会長** 要は、アイコンにはあるけれども、個別の種の説明のところでは生育環境に草地に該当するものが見当たらないということですね。

私個人的には、草地というのは使うことがよくありますし、あってもいいかなとは思いますが、生育環境にないのは、これは明らかに不整合なので、編集に関わった方、御意見お願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

○**環境政策課長** 環境政策課長です。

○**宮下会長** はい、どうぞ。

○**環境政策課長** ありがとうございます。28ページ等に、出先のほうに草地という記載があるとおり、こちらにその表記が入っていないというところでしたので、こちらのほう、もう一度精査いたしまして、会長おっしゃるとおり、草地が生育環境にないというのはちょっと変だということもありますので、こちらのほうに記載をしていきたいというふうに思います。

○**宮下会長** ありがとうございます。

小川さん、よろしいでしょうか。

○**小川委員** 大丈夫です。ありがとうございます。

○**宮下会長** それでは、ほかに御意見、御質問はございますか。

松下さん、どうぞ。

○**松下委員** 四、五個あるのですが、よろしいですか。細かいことじゃありません。

まず、4ページ目、全体としてすごく良く出来て興味を持って読めるものなので、最初に出てくる4ページ目のイラスト、これが、せっかく神田川とか書いてあるけど、全く文京区らしく感じないです。どこか地方都市の緑の豊かなところみたいに感じてしまうので、文京区でもこんな多様性があるんだよというふうにしたいわけですから、もうちょっと、シビックセンターがあるなど、いろいろ苦労はされているのですが、ここまで緑も多くない、のどかではないので、もうちょっとリアルに感じられるような絵にしていきたいなと思います。

それから、次が19ページ、文京区内にかつてあった河川というのがあるのですけれども、ば一っと見ますと、もともと文京区のところ、よく今でも手のひらとか言うと思います。5つの大地があって、昔はここに海が来ていたんですよ、弥生式土器というのはここで、それは海の境目ですよ。私も地元の区立の小学校で、いつも5本の指とかいうのをこんな感じでやって覚えていたし、この冊子を見る限りは、何となく書いてあるのだけれども、そういう子供なりが興味を持つようなインパクトなのがないし、この図は、よく見れば分かるのですけれども、実は、つい最近出た新書で、東京のそういうやつを上下にわたって出たものがあるのです。それが本郷とか取り上げていて、それが非常にビジュアルで、例えば清水橋のあるところなんか、こんな大きい谷だったとか、いろいろなものが出ている。それから、文京区がみんな暗渠になっているけど、本当はすごいところだったんですよ。それから、文京区の災害マップを見ても、意外なところが洪水になるようになっているんですよ。それがかなり重なるので、もうちょっと地図、この19ページ、これでも悪くはないのだけれど、もっともっとインパクトあるような、昔海だったとか川だったとか洪水もあったとかいうのが分かるような地図、今度区役所にその本を持ってきますので、それを参考にちょっとリアルにしたほうがいいのかなという気もしております。

それから次に、たくさん昆虫や魚、すごくビジュアルで、子供にも大人にも受けると思うのですが、どこにこれがありますよというのは、あまりはっきりすると、珍しいものも問題あるからしてないわけですよ。そういう理解でよろしいですよ。その代わり、写真で、これが千駄木だとか白山と書いてあるのは、最大限の譲歩がここだと、そういう理解でよろしいでしょうか。

○環境政策課長 環境政策課長です。珍しい植物とかを紹介するときに、その生息域を具体的に紹介してしまうと、盗掘に遭ったり、昆虫であれば採取されてしまうという恐れもありますので、そういったところで配慮したところがございます。

○松下委員 分かりました。それから、せっかく文京区ということで、82ページにニホンミツバチを取り上げています。実は今、文京区社会福祉協議会さんが、ひきこもりの8050問題の解決の一環として、養蜂箱をあちこちに置いて、ひきこもりの人を外に出そうというのを展開しようとしています。実は私どもの会社にも置いてありまして、いろんなことが分かってちょっと感激していますが、せっかく文京区の、社会福祉協議会は文京区じゃないと言うかどうか別にして、そのような外来種もあるわけですから、

ちょっとその辺の養蜂箱のことを、後ろのほうを見てもないので、どこかにちょっと入れてもらえたら楽しいかなという気がしております。

それから最後ですけれども、途中で、縄文時代から始まってずっと流れの文章があるのですが、委員ですと、佐野さん等は、また松下が言っていると言われるかもしれませんが、初めの方が多いのでちょっと言わせていただきますが、実は、清水谷、今清水橋がかかっている辺り、昭和の初期までは本当に道も狭くてやぶだったのです、清水谷が流れていてホテルも飛び交っていたのです。だから、今言っているのが14ページのところですけど、何々時代と細かく書いてありますが、例えば大正年間のところに、まだ清水台の辺りではホテルも飛び交っていたとか、実はこれ、区民の方々、前の環境のあれを出したときにもそういうことを言われた方がいらっしゃいますので、ホテルが飛んでいた文京区というのは非常にインパクトあるので、と入れてほしいなと思ったり、あとは昭和年間のところ、第2次大戦では、大半が焼け野原となりましたとあって終わってしまっているのですが、実は戦争の途中から、牧場も随分文京区は多かったらしいのです。だから、生物多様性と言えるかどうかは別にして、ちょっとその辺、動物も絡むので、哺乳類少ないですから、牧場があったこともある文京区みたいに入れてもらったら面白いかなと思いました。

以上です。

○宮下会長 いろいろ御要望が出たので、なかなか全てきっちりお答えするのは難しいかもしれませんが、大きく分けると、例えば4ページ、19ページのようにリアリティを出すという、そういう修正の部分と、あと追加ですね。ちょっと追加はいろんな期限が迫っているということで、どこまでできるか分かりませんが、マイナーであればそんなに大変じゃないかと思うのですが、いかがでしょうか。編集に関わっている方、お願いします。

○環境政策課長 環境政策課長、大野です。

○宮下会長 はい、どうぞ。

○環境政策課長 ありがとうございます。大変興味深いお話いただきまして、盛り込んでいけたら非常に内容がより充実するのかなというふうにお聞きしておりましたが、ちょっと紙面の関係等もございますので、先ほどのホテルのような記載で、文言の追加等であればすぐ対応ができるかと思うのですが、例えば写真とかといったものの追加となると、ちょっと大幅に構成の変更になるようなところについては、一旦預らせてい

ただいて検討させていただいて、盛り込めるものは盛り込んでいきたいというふうに、可能なら対応していきたいと思います。

よろしいでしょうか。

○宮下会長 いかがでしょうか。

○松下委員 ちょうど18、19のところで、左のほうにホテルの椿山荘というコメントが写真入っていて、その右にちょうど清水谷があるところがあるので、少し大正年間、昭和初期までホテルもいましたぐらいのことが入ったら、子供なんかびっくりするかなと思いました。だから、そんなに難しいというか、言葉をちょっと添えるとか、場合によってはもうちょっといい図があったら差し替えるとか、そのぐらいだと思います。

○宮下会長 分かりました。では、今の件、よろしいでしょうか。

○環境政策課長 ありがとうございます。可能なものについて対応させていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

○宮下会長 では次に、お茶水女子大学の方どうぞ。

○見明委員 見明です。お茶の水大学の見明と申します。

私の申し上げたかった意見は、先ほどの松下委員がおっしゃったことに少し、やっつてはいけないことだったのかもしれませんが、私自身はあまりこういう生き物の専門家でもありませんので、読み物としてこの図鑑が面白いなと思ひまして、ただ、書いてある情報が、地名は書いてありますが、地図を入れてもらえないかというのを、全体を取りまとめるような地図がないので、どこに行けばこの場所があつて、どこに行けばこの植物が見られてというのが、実際体験したいと思ったときに、地名だけでは、申し訳ないですが、私は分かりませんでした。

なので、部分的に坂道の地図のとか公園の場所とかそういうのはそれなりに出てきますけれども、全体を読み込まないと、だからどこに行けばいいか分かりません。初めて見るときに、全体地図があつて、それがここに出てくる地名なんかが表示してあると大変よいかと思ひましたので、明かせないところがあるというのは分かりませんでしたので、できることできないことがあるのかもしれませんが、取りまとめるような地図があるといいなと意見申したいと思ひます。

以上です。

○宮下会長 私の意見なのですが、図鑑にはいろんなものがあり、通常図鑑は、どこに行けば見られるということは書いていません。要するに、野外で見た場合に、それが何

なのかを識別するための図鑑が多いと思います。ただ、地域の図鑑の場合は、用途が少し違いまして、今おっしゃったとおり、一般の方がどこへ行ったらこれを見られるのだろうかという、通常の図鑑とはまた少し違う機能はあるかもしれませんね。貴重な生物だったりすると、それは無理だと思いますので、その辺のバランスをどう取るか、あるいは、地図にした場合、出せる種と出せない種は当然出てきてしまうので、中途半端感も出てしまうかなという気がするのですが、編集の方、御意見どうでしょうか。

○環境政策課長 環境政策課長、大野です。

○宮下会長 はい。

○環境政策課長 今会長おっしゃっていただきましたが、冒頭私も簡単に触れさせていただきましたが、図鑑の機能に加えて、どういったところで区内にどういった生き物が生息しているというところを、私どもといたしましては、ちょっとプラスアルファで楽しんでいけるようにという、つくってきたという経緯もございますので、いただいた意見はありがとうございます。反映できるものについては、ちょっとなかなか難しいかもしれませんが、御意見として承らせていただきます。ありがとうございます。

○宮下会長 時々見るのは、全部の網羅は無理なので、地図のなかの代表的な場所に生き物が吹き出しで出ているという、そういう形だったらバランスはうまく取れるかもしれませんが。ただ、それはそれでまた一作業になるので難しいかもしれないですが。御検討、よろしくお願いします。

よろしいでしょうか、今の件は。ありがとうございました。

次は、木村様、お願いできますか。

○木村委員 ありがとうございます。先生、ありがとうございます。木村と申します。本日はありがとうございました。

私が、本当にいたって素人的な意見というか、思ったことですがけれども、こちら、生きもの図鑑ということで、別に策定されている生物多様性地域戦略とは全く別のものとは思うのですが、思ったのが、生物多様性という目次を見ても、17ページから22ページくらいまで生物多様性のことが書かれているなというふうに思って拝見して、これは、結構内容も分量多いです、年齢の高めの子供が見るのかなと思いつつも、ただ、子供が見ることが多いのかなというふうに考えたときに、別に策定されている生物多様性地域戦略などを併せて見るというよりも、これだけ見て、生物多様性がそもそも何で大事なのかとか、そういうことが、もしかしたら分かってもいいのかなというふう

に思いまして、先ほど紙面の制限の話もされていたので、どこまで可能かというのは、ちょっと何とも分からないので、取りあえず今意見をお伝えしているのですけれども、例えば17ページの生物多様性の特徴の前のところとかに、例えば、今回これをお送りいただいて、文京区生物多様性地域戦略の概要版を委員になったときに送っていただいて、その中で、生物多様性って何だろうと子供向けに、これとか、御覧になれますか。これとか入れるだけでも、もしかしたら生物多様性が大事だというのが分かって、それでその生物多様性とその文京区の地形など、そういう具体的なところを入れていきやすくなるのかなというふうに思って、その点、御意見させていただければなと思いました。

すいません、現実的に可能かどうかもちょっと分からず、取りあえず意見をさせていただいたというふうな次第です。

以上です。

○宮下会長 ありがとうございます。確かに、生物多様性はなぜ大事なのかがあまり出てないということですね。でしたら、22ページ、23ページ辺りがそれに該当するかなど、文字ばかりですが、私はそう思ったのですが、編集関係の方はいかがでしょうか。

○環境政策課長 環境政策課長、大野です。ありがとうございます。

この図鑑でも、22ページに、会長お話しのとおり記載してありますが、こちら、少し工夫できるものについては工夫する、また、委員お話しいただいた概要版の冊子について、区の小学校等に配付しておりますので、またこの図鑑につきましても小中学校に配付いたしまして、閲覧用としていただくという予定になっておりますので、この地域戦略の概要版、また、本編と併せて閲覧できるような形で、なかなか全体を盛り込むというのは難しい部分もありますが、先ほどお話しした22ページも少し検討することも含めて対応したいと思います。よろしいでしょうか。

○木村委員 すいません、恐れ入ります。ありがとうございます。

○宮下会長 では、佐野様、お願いします。

○佐野委員 ありがとうございます。

先ほど松下委員からの御発言の中で、重要種について触れられておりまして、見明委員からの御発言とも少し議論が発展した部分があつて、方向性が見えてきたのかなど。

重要種の調査に関わったことがあります、その際にやっぱり、大野課長もおっしゃっていましたが、持ち帰りとか盗掘というのが、すごく重要種においては重要な観点であるなというふうに、過去の経験からも痛感しております。

それで、118ページに掲載しております重要種につきましては、目白台とか本郷といったことで、その前の本文のところで紹介はされておりますけれど、重要種については、こういったものを外してもいいのかなという気はします。鳥類などでしたら、持ち帰られるということは少ないと思うのですが、やはり水生生物ですとか植物については、さらに踏み込んだ配慮が必要ではないのかなというのが私の意見として述べさせていただきたいということと、その隣の119ページのところでも、開発や乱獲等の人間活動による危機というところでやはり触れておりますので、もう少し文京区としての、または我々区民として、こういった重要種がいるということを知るとともに、どういうふうに共存をしていくべきなのか、もう少し考えていくべきのかなと思いました。

その観点で、135ページのところで、「生きものの観察で注意すること」というページがありまして、生き物を傷つけないという説明、呼びかけが入っておりますので、ここをもう少し膨らませていただいて、ぜひ生き物は持ち帰らないということもはっきりと明記してスタンスを示していただければどうかというふうに思いました。

以上です。

○宮下会長 ありがとうございます。最後の部分は非常に重要で、傷つけない、持っていかないということですね。あとは、やたらに餌をあげないということで、書いてありますね。ハトやコイには餌をあげるのはやめましょうと書いてありますね。持ち帰らないということは、すぐに入れられるかなとは思いますが。

あと、場所についてですが、これは、私はここに行けばその生きものがあるというよりは、単に撮影した場所として書いてあるだけと書いていたのですが、ただ、それにしても、今の御意見ですと、例えば、鳥はともかくとして、植物だと、キンランなどは隠してもいいのかなという御意見だったと思います。

編集の担当の方がいかがでしょうか。

○環境政策課長 環境政策課長、大野です。ありがとうございます。

こちらにつきましても、監修の先生とちょっと御相談させていただいて、生きものは持ち帰らないとかそういった部分についてはすぐに対応できますので、そういった形で取らせていただきたいと思います。

○宮下会長 ありがとうございます。よろしいですか。

それでは、次、池原様、お願いします。

○池原委員 池原です。ありがとうございます。

2点、ちょっとコメントを述べさせていただければと思いますが、まず1つは、今のところでも出てきました119ページで、生物多様性に迫る4つの危機ということで、少しコラム的に分かりやすく挿入していただいているのですが、何となく、ぱっと見た限りですと、一般的な、本当にちょっとジェネラルな意味で、生物多様性に対してこんな危機がありますよという見え方に少し印象を持ちました。むしろ、この図鑑は非常によく監修されて、コンテンツもよく充実したものになっていて、非常にいろんなところで教育とか現状認識とか、ファクトシートとしても非常に活用の幅が広い、よいものができると思うのですが、これらが、ふーんで終わらせてはいけなくて、このままの状況で進んでしまうと、20年後、30年後、あるいは今世紀後半などにはもうどんどんこういった生き物が見られなくなっていってしまうという、そういう危機意識というのが、全体的に図鑑を通しては感じられにくいところがあるかなという印象がありました。ですから、実はこの4つの危機というのは、こういったことがそれぞれ進んでいく、あるいはそれぞれ絡み合って進んでいくと、ここで紹介しているような、図鑑で紹介されているような動物、動植物種も、どんどん喪失されていく可能性があるという、そこが、何か一文でもいいので、このコラムの中に入っているとよいかなという気がいたしました。

そういったことを食い止めていくために自分たちでは何ができるのか、区の中ではどんなことがアクションとして取り得るのかということが、それぞれの危機の下の部分にそれぞれ書いていただいているので、それがソリューションとして取り得るアクションだということになるわけですので、やっぱりコラムの冒頭の辺りでも、こういった4つの危機が、この図鑑に載っているような動植物種にも大きな危機になっていますよということが分かるような文章が入っているとよいかなというのが1つ目のコメントでございます。

それから2つ目は、先ほども出てきた23ページの食生活のコラムのところで、認証制度の話です。私もFSCを残すということは、むしろ残したほうがよいかなと賛成の意見でして、うまく文言を変えるとすることでぜひ残していただきたいと思っています。やはり影響力、実効性という意味で、FSCはほかの3つの認証マークに比べても非常に実効性も高いし、ほかよりも早くから普及していて、小学生なども区内で、学校でも習ったりしてFSCを知っている子が多いというところがありますので、これをなくしてしまうとちょっともったいないなという気がいたします。

それからちょっと大きな視点で言いますと、このコラムが、私たちの食生活自体が多くの生きものに支えられているのだというスタンスで始まってまとめられているわけですが、やはり大きな視点としては、左のページの（２）の供給サービスにあるように、私たちの食、暮らしというのは、区内だけで完結しているわけではなくて、区外の生物多様性、あるいは国外の生物多様性に、支えられて成り立っているということを、コラムの最初のほうにでも、やっぱり説明としてでもあったほうがいいのかなどという気がしています。もちろん、こういう図鑑を通して区内の多様性をしっかりと真面目に考えていくことも大事ですけれども、区外とか国外の生物多様性、森林を伐採してプランテーションにして、こういったパーム油を不適切につくってしまったりとか、紙とか木材を不適切につくったりという、そういうことをされているわけですが、それを消費者として私たちが選んでしまうと、実はそういう区外、国外の多様性の喪失に加担してしまっているという、それがちょっとここでは伝わらない部分があるかなというふうに思いますので、ぜひそういった、スペースも限りもありますけれども、そういった視点が見えるような一文、二文を入れていただいて、それらに加担せず、自分たち区内の人間でも、それにソリューションとして解決、貢献できるのが、こういった下にあるようなエコラベルのついている商品を選ぶことだという、それが分かるとなおいいかなと思った次第です。

ありがとうございます。

○宮下会長 大変重要な御指摘、ありがとうございます。

まず、後者の点で言いますと、私もヒアリングで何年前に全く同じことを言っていたと思います。要するに、貿易を通じた負荷ですよね。特に都市の住民は、見えないところで海外に負荷をかけているということで、恐らくこの２３ページの、ちょうど真ん中の「都内近郊の食材、旬の食材を食べよう！」に入れ込めるような気がします。なぜ地域でとれたものを食べるのかというところが今おっしゃったところで、要するに、輸入等で海外のものを持ってくるといろいろな負荷がかかるという、そういう背景があって、実際、それに類すること、輸送に伴う負荷も書いてあります。今おっしゃったのは、ほかの地域の生態系なり自然にマイナスの影響を与えるということ、それを解決する方法として、やはり地元のものを食べるという、そういうロジックでいけるのかなと思いますので、このあたりに、２行程度で入れ込めるのではないかなというふうに、私も思いました。

あと、多様性の危機で、これは恐らく付録として、よく政策文書に掲載されていることで、特にここの多様性の4つの要因は恐らくそういう意図だと思います。

先ほどの、放っておくとどんどん絶滅してしまうというのは、まさにレッドリスト自体がそういう基準を基にランクづけされているわけですので、レッドリストは117ページにあって、118ページは、これは重要種というのはレッドリスト種とは限らないかもしれませんが、ここには一応、全部出ていますよね。ですから、それを受ける形で、このままいくとこういった生きものが喪失してしまうというようなことがあれば、今のコメントに受けられるかなと思いましたが、事務局、いかがでしょうか。

○環境政策課長 池原委員、会長、ありがとうございます。

ちょっと今、会長からいただいたお話やお知恵をいただきながら、盛り込めるものについて、対応していければと思います。ありがとうございます。

○池原委員 ありがとうございます。

○宮下会長 ありがとうございます。

小川さん、お願いします。

○小川委員 すいません、何度もありがとうございます。

小中学校に配られるということで気がついたのでコメントさせていただきたいのですが、けれども、実は汐見小学校の校長先生、理科の先生で、毎月月のコラムに、文京区で見た生き物の話というのを学校だよりに出されているのですが、そういう意味で、どこかの段階で、小学生も読めるかどうか、また、文京区でどんなふうに見えているかというコメントをいただいてもいいのではないかなと思いましたが、発言させていただきました。

やはり、こういう図鑑の中で、図鑑の知識が引かれているだけではなくて、文京区ではどうかという記載がすごく欲しいなというのがあったので、併せて言わせていただきました。

30年くらい前に、実は北区の野鳥とか北区の植物、隣の区で図鑑をつくってしまっていて、そこには確実に北区では河川敷に見られるとか、そういう記載がされているので、そういうことも含めて、文京区ではという情報になるようになっていくことを期待します。

以上、2点です。たくさんコメントあって申し訳ありません。

○宮下会長 今のコメントは、どちらかというところ、この本で対応するというのではなく

て、今後フィードバック等も含めて、バージョンアップする際に考えてほしいという、そういう御意見でよろしいでしょうか。それとも、今のこのバージョンでも何か改善すべき点があるでしょうか。

○小川委員 できれば、文京区ではどこに見えますという情報が書き足されればいいなということと、汐見小の校長先生に、小学生でも読めるかなとか、汐見の校長先生が持っている文京区での生きものの情報とかを少し御意見いただけるといいのではないかと思います。

○宮下会長 事務局の方、いかがでしょうか。

○環境政策課長 ありがとうございます。先ほどから申し訳ありません、時間的な部分もありますので、可能な部分については御対応させていただきたいと思います。

汐見小の件、貴重な情報ありがとうございます。

○宮下会長 それでは、大分時間も押してきておりますので、私のほうから1点だけ簡単な質問ですが、これは一般の書店で販売されるのでしょうか。それと、値段はお幾らになる想定でしょうか。

○環境政策課長 現時点では、まだ一般の書店ではというところまではいっていませんが、値段については1,000円以内で今考えております。区の行政情報センターで販売をする予定です。

○宮下会長 なかなかその情報を周知するというのは、広報とか、私の住んでいるところもそうですけれど、広報などに出ている、あるいはホームページに出ている、全然見ないことがあるので、宣伝はなるべくいろいろ工夫されて、大勢の方に案内が行くように、ぜひよろしくお願ひしたいというふうに思います。

ほかに、御意見どうでしょうか。中山先生、いかがですか。

○中山副会長 私のほうも、事前に資料を見せていただきまして、質問等させていただいて、そのものは修正していただいたりもしております。

今日、皆様方から本当に気がつかなかった多くの指摘等をいただいて、すごく勉強になったという言い方も変ですが、今後の図鑑がバージョンアップされていくときに、ぜひ今日の皆さんの御意見を生かしていただければと思ってお聞きしていました。

以上です。

○宮下会長 どうもありがとうございました。時間と紙面の制約があるので、全ての御意見に沿うことはできないかもしれませんが、可能な限り良い本にしていくという

ことで検討していただければというふうに思います。

それでは、どうもありがとうございました。議題は以上になります。

その他ですが、事務局から何か連絡事項はありますでしょうか。

○環境政策課長 それでは、最後に事務局から御連絡事項を申し上げます。

今後の予定ですが、本日御協議いただきました図鑑について、先ほどお答えしたとおり、できる限り対応できるものは対応するといたしまして、改めて監修の先生方等の最終確認を行って、今年度内に作成する予定です。作成できましたら、委員の皆様方にお送りする予定であります。

会長、副会長にも相談させていただきますが、その紙面の内容については反映できる、できないも含めて御一任させていただきたいと思っております。

また、今後のスケジュールですが、来年度の協議会は1回を予定しておりまして、夏から秋頃の開催を考えております。開催の1か月前ぐらいには皆様に予定をお知らせいたしますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。本日はありがとうございます。

○宮下会長 どうもありがとうございました。

個人的な私の経験を申し上げますと、私、実は、小学校に上がる前から図鑑で育ったと言っても過言ではありません。父親が長野県の小学校の先生をやってまして、昆虫、植物、哺乳類、鳥など、そういう図鑑が一通り全部そろってまして、それでチョウの名前なども、小学校に上がるくらいに大体日本の種は全部覚えたりしました。図鑑は本当に子供にとって影響力のあるものだと思います。今回のこの図鑑は、通常のいわゆる生きものがただ出ているわけではないので、内容的に小学生には少し難しいかもしれませんが、高学年とか、あるいは中学生であれば十分に理解できる内容になっていると思います。非常に総合的というか、幅広い内容を扱っているもので、私も大変期待しているところであります。日程は迫ってはおりますが、可能な限り良いものをつくっていただければというふうに思っています。

以上で本日の日程は終了いたしましたので、これで協議会を閉会したいと思います。皆様、どうも本当にお忙しい中ありがとうございました。

— 了 —